

# 穂学

平成28年度

広州日本人学校学校便り

[No. 7]

平成28年10月13日(木)(P)

発行責任者 教頭 高橋秀之

◇◆◇◆素晴らしき子どもたち◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆ 校長 丸本 互

前回の「穂学」では、小学部6年生の修学旅行の様子と、中学部1年生の宿泊体験学習の様子をお知らせしましたが、9月27日から30日にかけて、3泊4日で中学部2年生が北京に修学旅行に出かけました。

私は教員になって40年近く経ちますが、小学校の経験しか無く、なかなか中学生との関わりを持つ機会がありませんでしたので、今回の中学部2年生の修学旅行に引率するのをもとても楽しみにしていました。中学生が、学校や家庭を離れ自分たちが主体となって生活する中で、どんな素顔を見せてくれるか。また、どの様に率先して行動するのか興味津々で出かけました。

バスの中、飛行機の中での様子は大変落ち着いており、誰一人として勝手な行動を取る生徒はいませんでした。見学の時間になってもガイドさんの話を一言も漏らすことがないように真剣にしっかりと聞き、メモを取ってまとめている。そんな姿を見て、遠い昔、自分たちの修学旅行の時はどうだっただろうかと思いを馳せてしまいました。自分たちが中学生の時は、奈良・京都・吉野に出かけましたが、自分たちの思いで勝手な行動をとる生徒が多かったように記憶しています。多くの生徒たちを引率していたその時の先生方は大変だっただろうなという思いも頭の中をよぎりました。そんなことを考えている中でも、26名の生徒たちは修学旅行の目的をきちんと理解した行動を取っていました。

北京日本人学校に転校した友だちの夕食会場へのサプライズ登場や、修学旅行最終日が本校登校が最後になり日本に帰国すると連絡を受けた友だちがいることを聞いた時の驚きや涙。それぞれの場で、生徒たちの思いのこもった表情を垣間見ることができた北京修学旅行になりました。生徒たちは多くの体験を積み、また一回り大きく成長したように感じました。

中学部の生徒たちの、生徒会立候補者立会演説も聞かせてもらいましたが、自分たちの力で広州日本人学校をより良くしていこうという強い意志をそれぞれの演説から感じることができました。生徒たちの投票で当選して生徒会の役に就いた人たちも、残念ながら役に就けなかった人たちも、広州日本人学校を思う気持ちの強さは同じだと感じました。

このように素晴らしい中学部の生徒たちが、小学部の児童をしっかりと優しくリードしている広州日本人学校は、どこの学校にも負けない世界一の学校であると確信しました。この子どもたちの前向きなそして優しさに溢れた素晴らしさを、私たち教師がしっかりと支えていかなければいけないと強く感じたこの1ヶ月でした。

今後も、保護者の方々のお力添えをいただきながら、さらに素晴らしい子どもたちに育てていけるよう頑張ってお参りますので、ご協力の程よろしくお願い致します。

